



診療室風景

半分、青い。診療所

活気ある町へ

恵那市は、名古屋市の中心部からおよそ60km、岐阜県の南東部に位置し、人口は49,894人です。恵那市国民健康保険岩村診療所のある恵那市岩村町は、人口4,912人ですが、診療圏は隣接する地域を含めおおよそ16,000人程になります。町の中央部を南北に国道257号、東西に国道363号と明知鉄道が走っており、中央自動車道恵那インターまで車で30分程の比較的交通アクセスの良い立地にあります。

町内には日本三大山城の1つである岩村城址、重要伝統的建造物群保存地区としての町並み、富田地区の農村景観日本一の地などがあり、約800年余りの永い歴史ある自然豊かな町で「女城主の里」として観光にも力を入れている地域です。最近では、一昨年放送されたNHK連続テレビ小説『半分、青い。』のロケ地として全国に紹介され、沢山の観光客の方々にお越しいただいております。また、今月から放送されるNHK大河ドラマ『麒麟(きりん)』



診療所全景

「がくる」の主演明智秀ゆかりの地が市内にあるなどで引き続き観光客誘致に力を入れているところです。

診療所の現況

恵那市国民健康保険岩村診療所は、昭和28年国民健康保険直営病院(43床)として開設。その後、施設の老朽化に伴い昭和55年5月に病床数19床の診療所となりましたが、市町村合併による改編で平成20年度には入院施設を廃止しています。恵那市内にはそれまで透析施設が1箇所しかなく、市内の透析患者様が他の市町村施設まで通院されていたことから当院の施設改修を行い、平成21年度に20ベッドの恵那市透析センターを元病床のあった2階に開設しました。主に恵南地域の透析患者様を対象として、現在30人程の透析患者様の受け入れを行っています。

診療科目は、内科が中心で常勤医1人ですが、その他小児科と整形外科は週2回、耳鼻咽喉科は週1回、非常勤医師の派遣を受け半日ずつ診療しています。

医師以外のスタッフは、看護師16人(外来4人、透析9人、非常勤3人)、臨床検査技師1人、放射線技師1人、理学療法士1人、臨床工学技士3人、事務他5人(派遣非常勤を含む)で運営しています。市町村合併当初は、消化管内視鏡、CT、X線透視などの装備を有していましたが、装置の老朽化とコスト削減のため廃止し、現在は主に超音波検査、単純X線画像、血液生化学検査等の軽装備で診断しており、精査が必要な場合2次医療機関へ依頼しています。

現在の常勤医師1名で内科外来診療と人工透析週2クルールの診療を同時並行して行っており、1年間の延べ受診数が約14,000人です。また市内の学校・こども園健診、予防接種、住民健診など地域の保健、健診活動や介護保険の認定審査などの業務もあり、訪問診療などの在宅医療は手が回らず、やや縮小傾向です。しかし、他地域と同様に高齢化で一人暮らしの患者様も多く、訪問看護師やケアマネージャーとは常に相談できる体制にして、情報共有を図っています。また、近隣の開業されている先生や歯科の先生とも専門分野で連携を取るようにはしています。入院治療や精査が必要な場合は国保上矢作病院、市立恵那病院、中津川市民病院、東濃厚生病院、土岐市立総合病院、県立多治見病院など岐阜県内の基幹病院の他、名古屋徳洲会病院、名古屋大学、愛知医科大学、藤田医科大学、愛知県がんセンターなど愛知県内の医療機関への紹介も多くあります。特定の後方支援病院が決まっている訳ではないため、当院で可能な限りの鑑別診断を行い、



診療所スタッフ
前列左から、渡部看護師、前野所長、田中看護師、鶴見事務長
中列左から、太田看護師、大島看護師、和田理学療法士、伊藤看護師
後列左から、森事務員、松下看護師、奥検査技師、牧野放射線技師



透析スタッフ
前列左から、勝看護師、前野所長、藤井看護師
後列左から、河野看護師、原看護師、坂本看護師、渡邊工芸士

今後の課題

各病院の専門分野へ紹介するよう心がけています。診断後は逆紹介で再び診療所で外来フォローするなど、病診連携の構築はかなり進みました。

現在の課題の一つとしては、救急搬送の問題があります。御高齢の一人暮らしが多く、また同居されていても家族が不在で発見が遅れ、週末や夕方状態が悪化してから受診されるケースが多くみられます。病院が当直帯に変わるぎりぎりになってしまいう時は、受け入れ先がすぐには決まりません。家族に説明して受け

入れ可能な病院になんとかお願いして救急搬送している状況です。その他では、透析患者様の急変や外来の重症患者様の対応、一般外来患者様の混雑が重なったときにも対応に苦慮しております。

今後、国の地域医療構想の進展に伴い、更に病院の数が減少することで現状がより困難になると危惧されます。当診療所は、医療機器や設備なども老朽化が激しく、維持修繕経費が年々増加し経営悪化の一因となっております。しかしながら、地域になくならない医療機関であり、住民サービスの低下がないようスタッフ一同、日々奮闘しております。

所長のこぼれ話

所長 前野 禎



専門分野
一般内科

着任当時の思い出
市町村合併直後の赴任でいろいろな混乱があり、何度もやめようと思いましたが、つら過ぎてあまり思い出したくないですが、今は看護師さんとの笑い話になっています。

野良ネコさんがやってきて家に住み着き、家族になりました。とても癒されます。

休日の過ごし方
趣味
妻がアトピーの気があり、温泉へ湯治にいきます。DIYが好きで、ピザ窯や大きなネコの家を作っています。

